

(森林整備の効率化による評価)

事業名		事業箇所			地区名	(区分) 国補	
林道事業〔森林管理道開設事業(国費)〕		甲州市 塩山下萩原 地内			日川左岸線 <small>にっかがわさん、せん 日川左岸線</small>	事業主体	山梨県
(1)事業概要					(3)事業の妥当性評価		
①課題・背景 本計画箇所は、甲州市塩山下萩原地内の日川上流の県有林内に位置し、利用区域面積159haのうち約87%の138haがカラマツを中心とした人工林であり、そのうち55%が伐採対象となっている。 本路線を整備することにより、主伐・収穫間伐を主体とした効率的な森林整備が可能となり、適正な森林の維持管理が図られる。					①公共関与の妥当性(行政が行うべき事業か) ・森林・林業基本法第6条の地方公共団体の責務に該当。		
②整備目標・効果					②事業執行主体の妥当性(県が行うべきか) ・県有林内の林道であり、森林所有者として県の実施が妥当である。		
□主要目標					③経済妥当性 費用便益費 便益(B)／費用(C)= 1.15 >1.0 ・便益(B)= 682 百万円 ・費用(C)= 593 百万円		
○森林整備の効率化 ・利用区域内の人工林における伐採対象人工林の割合 54.6% ≥ 36.5%※ ・利用区域内の人工林率 86.7% ≥ 69.9%※ ・徒歩で30分以内に到達できる範囲内森林の人工林率 92.5% ≥ 70.0%※ ※評価基準値					④事業実施・規模の妥当性 ・県道大菩薩初鹿野線と林道日川線を連絡する森林管理道であり、計画的な主伐・収穫間伐を実施するうえで利用区域面積、延長・幅員とも妥当である。		
□副次効果					⑤整備手法の有効性 ・本計画箇所は林齢の高い森林であるがアクセスする道路がなく、収穫や間伐等を効率的に実施するためには、現況地形や利用区域面積を踏まえると森林管理道の開設が有効である。		
○林業生産力の向上 (新たな輸送ルートの確保及び高性能林業機械の導入による低コスト化) ○防火帯・延焼遮断帯の確保 (延焼防止に資する防火帯の新たな確保)					⑥環境負荷への配慮 ・地形に沿った線形を採用し、路線用地の伐開幅は最小となるよう留意する。 ・雨水等の排水処理は、短区間で行う計画とする。		
③目標の達成方法 森林整備対象箇所直結する路網計画により、高性能林業機械による低コスト化及び森林整備の効率化を図る。					⑦事業計画の熟度 ・利用区域はすべて県有林であり、県有林管理計画に基づく事業計画である。 ・地域森林計画にも記載された、計画的な事業である。		
					<妥当性評価> ・7項目すべて妥当であることから、妥当と判断する。		
					(4)事業間優先度評価 ・貢献度ランク: a 副次効果ランク: l 優先度評価: S I		
(2)整備内容と整備量					(5)総合評価		
①整備内容 森林管理道 開設 L=3.300m W=4.0m 改築 L=800m W=4.0m					○		
②整備期間 平成29年度～平成37年度					・(3)及び(4)の結果から実施。		
③総事業費 約700百万円(国費315百万円(45%) 県費385百万円(55%))					【事業位置図等】		
④全体計画 平成29年度 改築 L=800m 30百万円 平成33年度 開設 L=400m 80百万円 " 開設 L=100m 30百万円 平成34年度 開設 L=400m 80百万円 平成30年度 開設 L=400m 80百万円 平成35年度 開設 L=400m 80百万円 平成31年度 開設 L=400m 80百万円 平成36年度 開設 L=400m 80百万円 平成32年度 開設 L=400m 80百万円 平成37年度 開設 L=400m 80百万円					省 略		
⑤既整備内容・期間・事業費 県営林道 一の平線 昭和54年度 開設 L=531m 30百万円 昭和55年度 開設 L=269m 13百万円 ※本事業において、県営林道日川左岸線として改築を実施							